

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年、職員研修の中で事業所の理念に触れ、全員で考え理念に基づいた目標を掲げた。	事業所が掲げる理念が実践できるよう、各ユニット毎に職員全員で目標を立て、常に目に触れる場所に掲示し一人ひとりが理解し行動に表せるよう努めている。実際に介護の現場では目標達成に向け入居者に対する声かけや、職員のペースではなく利用者のペースで介護が行われる等変化が見られている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域住民が多数参加しており、事業所の内容や様子を理解してくれている。事業所からは、町内の会合への参加や、地域の防災訓練にも入居者と共に参加するなど、交流をしている。	地域住民の運営推進会議への定期的な参加や地域の防災訓練に入居者と参加する等、地域住民との交流は活発に行われている。開設当初は地域の理解が十分とは言えず関わりは薄い面があったが、徐々に浸透し最近では地域住民の行事への参加や手伝い、配慮がなされるようになってきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会、民生委員との連携を図り、相談窓口となっている。また、今後は地域住民の介護予防の為に教室や講座等を事業所で開催できるよう、地域包括支援センター、民生委員等に働きかけている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に定期的開催しており、毎回報告や取組について、意見交換を行い、様々なアドバイスや意見を貰っている。会議の内容については、現場にも伝え、サービスの向上、改善に努めている。	2か月毎の運営推進会議には行政、関係機関職員、家族以外にも、5名の地域住民や民生委員退任後も参加を希望する方も定期的に参加し、検討事項に添って活発に意見交換がされている。議題で検討された内容は職員に伝達し運営に反映され、前回の議題、検討内容の経過報告、進捗状況も次回に報告しサービス向上に活かされている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業を運営する中で、状況や疑問点等を伝え、アドバイスを貰うなど、連携をとっている。	法令についての疑問点や地域特例の入居者についてなど必要に応じてアドバイスを貰っている。困難事例は現時点ではないが、高齢者が多い地域でもあり、包括支援センターとの連携は常に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、ユニット出入り口、玄関の施錠はせず、入居者に閉塞感を与えないよう努めている。但し、階段につながる出入り口については、転落の危険が大きい為普段は施錠しており、エレベーターの使用をお願いしている。	日中は玄関、ユニット内の施錠はせず、入居者の行動制限はしない方針である。夜間は町中でもあり防犯上の見地から玄関の施錠は行われている。朝方外出しようとする入居者には、声かけで留まる場合と、どうしても出かけた時は、無理に止めるのではなく、一緒に近隣を回るなど入居者の思いに沿った支援を心掛けている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業者、管理者は外部の研修で学び、職員に内部研修等で指導している。また、職員のストレスにも注意し、対応、防止に努めている。	研修を通し、身体的虐待だけでなく、何気ない声かけが虐待となる場合もあることを職員全員が理解している。常に自分自身の入居者に対する対応を振り返る機会を作り、職員間でも相互に確認し合うことで入居者の尊厳を守ろうとする姿勢が窺える。管理者も現場を担当し職員のストレスの要因を把握する努力をしており働きやすい職場となるように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業者、管理者は外部の研修を受講し、家族の相談にのれるようにしている。実際に制度を利用している入居者様もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を行い、ホームでの対応範囲や困難な場合についても説明を行い、納得してもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催したり、意見箱を設置し、意見を内外部に伝えることが出来るようにしている。また、運営推進会議に家族より参加してもらい、意見、要望等を直接聞く機会を設けている。	家族会の開催や意見箱の設置、家族も共に出かける機会を設けるなど、積極的に入居者、家族が意見要望を表せるように努めている。出された意見、要望については、その都度ミーティング、職員会議で話し合わせられ運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員会議の出席や、日々の朝礼等で、職員から直接意見等を聴き、吸い上げるよう努力している。また、管理者は月に1度の本社会議や定期報告にて、代表者に職員の意見等を伝える機会がある。更に、職員から取締役への直通ホットラインを設けている。	管理者も現場に関わり、職員の思い、意見、提案を吸い上げ共有するように努めている。月1回の職員会議や毎朝のミーティング時に、出された意見等は職員全員で話し合わせられ運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全職員に資格取得を奨励し、資格取得者には祝い金や資格手当を支給し、励みとなるような制度を設けています。また、夏季休暇(3日)冬季休暇(3日)を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員教育の為に研修制度を設け、職員一人ひとりの力量に添った研修を受けることが出来るようカリキュラムを組み立て、今年度より取り組む予定としている。外部への研修も随時参加を予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、様々な研修を通し、同業者との交流する機会がある。互いに見学、意見交換等を行い、ネットワークを広げ交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問し、家族の意向や本人の気持ちを伺い、安心して暮らせる為の関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と話し合い、今までの生活状況や、素案に思っている事等、聞き取りをしながら関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いが異なる事もあるが、双方が安心してサービスを受けることが出来るよう、間に入り調整しながら方向性を見つける努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の生活を支えるという事を重視し、本人のできること、介助すれはできることを見極め、生活全般に関わる物事に対し、その方に応じた支援方法を行っている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、ホームでの様子を伝える手紙を居室担当者より家族宛てに送っている。また、居室担当者を中心に家族と連絡をとり、共に支えていく関係作りをしている。	居室担当の職員が中心となり、入居者の日々の様子を丹念に観察し家族に報告、相談をしている。家族との連絡は密にし、何でも相談できる関係作りがなされ、共に支える体制となっている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の知人宛ての手紙を出すための支援や、知人が訪ねてきた際の他入居者を含めたおもてなし等で、次回も訪れやすい雰囲気作りを大切にしている。また、行事で近くまで外出した際に、懐かしい知人を訪ねたり、自宅に立ち寄るなどの支援も行っている。	外出行事の途中で懐かしい場所を尋ねたり、自宅の近辺を通るなど、入居者の思いを大切にした支援が行われている。馴染みの訪問者もあり、いつでも、どなたでも気軽に立ち寄れる雰囲気作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の心身の状態や対人関係を観察しながら、時々で間に入るなど、和やかな雰囲気が作れるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節のお便り等を通し交流を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話や言動の中にヒントを見つけ、思いに添った支援が出来るよう心掛けている。また、家族からも情報や	利用前の訪問時に本人のおもいや暮らし方の意向を把握しアセスメントを実施している。日々の関わりや会話の中から思いを引き出し、本人の視点に立って否定することなく思いに添った支援を心掛けている。日々の気付きは申し送りノートに記録して職員間で共有している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の家族、本人への聞き取りや、普段の会話の中から把握できるよう努めている。	利用前に相談受付表や申し込み表を用いて生活歴やどのような暮らしがしたいのか、日頃の習慣や癖、趣味や得意等を確認している。又、入居前に利用していたサービス事業所、ケアマネからも情報収集し、安心して入居者のペースでその人らしい生活を送る手助けが出来るように努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者を中心に一人ひとりに目を向け、小さい気付きを積み重ね、情報の共有をし、個々の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は、本人、家族、居室担当者から聞き取りを行い、定期及び必要時に検討会を開催している。	ケアプラン作成は居室担当者を決めて本人、家族の思いや希望を汲み取っている。又、日々の生活状況から見えてくる細かな現状や現場に即したプランを作成している。定期的にモニタリングを実施して必要に応じて計画の見直しや追加も行っている	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24日間の介護記録を個別に作成している。特変時等には別に記録をし、申し送りもを行い、情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部サービスの導入として、まごころ介護サービスやニチイの家事代行サービスの活用をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の防災訓練参加時に、自治会は地域住民にホームの入居者の参加を事前に周知してくれており、手を引いてくれるなどの支援や、様々な配慮を受けることができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時に、医療連携表を用いてホームでの細かな様子をかかりつけ医に伝達し、適切な指示を仰ぐなど、連携を図っている。	本人、家族の希望するかかりつけ医を尊重している。受診は家族対応が基本であるが緊急時や不可能な場合は職員が代行している。医療連携表を活用し、日頃の状態を申し送り、主治医からも意見を頂けるように連携が図られている。主治医からも評価されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している看護師が定期訪問しており、日頃の様子や状態を把握しやすいよう、専用の用紙を使い、お互いに情報を共有している。また、協力医とのカンファレンスにも参加してもらい、医師との連携もお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師やソーシャルワーカーに情報交換や相談の機会を設けてもらえるようにしている。入院中は出来る限り面会に訪れる事で、安心してもらえるよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前及び必要時には、事業所で出来ることの説明を行っている。また、日頃より家族と連絡を密にし、心身の状況の変化や日々の様子の共有を行っており、時々においてかかりつけ医との連携がとれるよう努めている。協力医においては、事業所内で定期的にカンファレンスを行い、状態の変化や日々の様子の共有を図っている。	入居前や早期から本人、家族に事業所として出来る事の説明を行っている。心身の状態の変化や日々の様子の共有は家族や主治医と連携を図っているが、設備的なことや体制、他の入居者への影響等を踏まえながら慎重に対応している。本人の状態に応じた病院や施設入所の移行の推進支援もなされている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習を年に一度、全職員が受講する事になっている。	業者からAEDの使用方法の受講をしている。開設時に看護師から応急手当、初期対応の研修に参加し実践に繋がれるように努めている。事故発生時のマニュアルが作成され、何時でも対応できるように全職員が周知している。	全ての職員が事故や急変時、応急手当や初期対応が出来るように、今後も定期的な訓練の実施と研修会が期待される。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行っている。また、地域の自主防災訓練に事業所として参加するなど、地域との連携を行っている。	事業所内では年2回避難訓練を実施している。マニュアルの作成、消化器の使い方や避難場所の確認など全職員が理解している。又、地域の自主防災訓練として参加して地域との連携も図っている。非常食や備品の整備もされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内での研修を通して、対応について皆で考えた指針をスタッフルームの常に見える箇所に掲示している。	入居者一人ひとりの性格や生活歴を把握し、事業所内で研修会を開催している。全職員で考えた指針を常に見える場所に掲示しており、誇りやプライドに配慮して丁寧な心温まる対応に努めている。不適切なケア時には注意し合い、尊重した対応が出来るように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の衣類を共に選ぶ等、様々な場面で自己決定出来るよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	研修を行い、ユニットの目標を立てた際、『職員のペースでなく入居者様のペースで』という目標を掲げ実践しようと心がけているが、一日の流れの中でやはり一人ひとりのペースに対応しきれない事も多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の着衣はもちろん、外出の際には身だしなみを整えられるよう支援している。また、化粧や白髪染め等、いつまでも若々しい姿でいることが出来るよう、ご家族にも協力を頂きながら配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切る、炒める、和える、盛り付け、配膳等々、こちらからお願いすることが多いが、入居者様が自ら「手伝おうか」と声を掛けてくれるようになってきている。一回の食事の準備をたくさん入居者様が関わって行っている。	入居者と共に食事を作ることを基本とし、野菜を切る、炒める、合える、味付け、盛り付けなどを共にやり、一人ひとりの出来る喜びや能力、得意を引き出し活かしている。大きなテーブルを囲み職員と共に楽しく美味しく食事ができる雰囲気づくりも大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事量のチェックや水分摂取量のチェックは一日を通して行っている。これらを基に、個々に応じて、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態を見極め、毎食後、全員に歯磨きの支援を行っている（声掛け、促し、見守り、一部介助、全介助）。また、毎晩、義歯洗浄剤を使用する場合の支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が少なくなるよう、本人の動作やしぐさで気付くことや、時間を見て声掛けを行う等、支援を行っている。	必要な入居者にはチェック表を用いるなどして排泄パターンを把握している。表情や状況を見落とさず、自立に向けた排泄を支援している。さりげない声掛けの時間誘導、速やかな対応、羞恥心の配慮に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時は胚芽押麦を白米に混ぜ食物繊維を多く摂取できる工夫をしている。また、水分摂取量のチェックは欠かさず行うなど、薬剤ばかりに頼ることのないよう、個々に応じた取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全面や職員配置の問題もあり、時間帯の制限はあるが、その範囲内で個々の希望やタイミングに合わせて入浴は行っている。	入居者の希望や状態に添った個別対応の入浴が出来るように支援している。ゆず湯、菖蒲湯、入浴剤など季節を感じる入浴も設定している。浴室は明るく、状態に応じた福祉用具も整い安全にゆったりとした入浴が出来るように整備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に自由に過ごしてもらっている。日々のレクリエーション等も強制することなく、個人の意思を尊重しながら支援を行っている。但し、夜間の睡眠を気持ち良いものにできるように、昼間の活動への参加促しは欠かさず、本人が自分の意志で参加できる為の声掛けを工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居室担当は担当の入居者様の薬剤情報を把握に努め、変化等あった際は、全職員に発信し、情報の共有を図っている。また、かかりつけ医とのカンファレンスや医療連携等で連携を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、個々の生活歴や日々の様子を観察や会話の中からヒントを見つけ、楽しみや気分転換が出来るよう、個別に合わせた働きかけを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気や個々の気分に応じて外出の支援ができるよう努力している。散歩や買い物等、気分転換は都度行っている。また、希望に添えるよう、家族に相談したり、事業所の行事として立案するなど協力しながら支援している。	一人ひとりの希望に応じての外出は可能である。散歩や買い物、地域の祭りや季節ごとの行事の外出を楽しんでいる。家族からも参加して頂き、事業所の行事として楽しい時間を過ごせるように企画している。立地条件も良く近隣にデパートや美術館、水族館などがあり外出を楽しめる地域である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より、小遣いを預かっており、必要な日用品、衣類等は、外出時自由に買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	天和の取り扱いが難しい為、電話を取り次ぐことや、かける為の支援は都度職員が行っている。 手紙の投函や、必要物品の準備なども支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に季節の花々を飾ったり、季節感のある飾りをホール内に掲示する等している。装飾については、派手過ぎず柔らかい雰囲気物の物を飾るよう心掛けている。また、日中は日当たりがよく、明るい空間となっている。	共有空間は明るい吹き抜けで広々とした空間である。玄関には季節の生花を飾り、スロープも設置しており、入居者にやさしい造りである。ホールや廊下には入居者と共に作った作品を低い位置に飾り、派手過ぎず柔らかい空間である。不快な音や臭いもなく生活感を醸しだし、居心地よく生活出来る場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースには食卓椅子の他、ソファや、畳コーナーがあり、思い思いの場所で過ごすことが出来る。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具を自由に持参してもらっている。	馴染みの物の持ち込みは自由である。全館バリアフリーで心地よく安全に生活が送れる造りになっている。本人、家族、担当職員が協力しながら、その人らしい居室作りを行っている。また、状態に応じて部屋の工夫を提供しており、安心して生活出来るように支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場面場面で洗濯量、料理作り、配膳、掃除等、個々の「できること」「わかること」を活かし、自立した生活が送れるよう工夫している。		